

方法により抽出し、Johnson 法により定量するに、該物質は妊娠中毒症患者に、正常妊婦に比し増加の傾向を認めた。

9. 晩期妊娠中毒症における肝の病態生理

(横濱市大) *森山 豊, 星野廣利, 堀 健一, 伊藤正作, 高橋和彦, 船橋退蔵, 杉崎和泉

妊娠時とくに晩期妊娠中毒症の際には、全身各臓器、器官に機質的、機能的變化が生ずるが、とくに肝、腎の變化が著しいことは古くから知られている。しかしなお不明な點も多々あるので私らは肝について、各種機能検査を行うとともに、肝カテーテル法によつて肝の血行力學的検査を行い、なお肝生検 (Biopsy) を行つて組織的検査を行つた。また犬について肝動脈、門脈、腎動脈狭窄實驗を行い、血流量、靜脈壓、肝生検を行つて、人における變化と對比した。

1. 肝機能、晩期妊娠中毒症について各種肝機能検査を行つた。a)ヘパトサルファレン試験。軽度乃至中等度陽性を示し、多くは産褥3~4日で正常値となる。b)血清ビリルビン量は $\frac{2}{3}$ 。例に軽度乃至中等度増加を認む。c)血清蛋白、A1 減少のもの多く、A1/G1 比は低下の傾向にあり、この比の低下著しいほど肝生検にも變化を認める。d)尿ウロビリノーゲン反應はすべて陽性で、HPS 試験とほぼ平行關係にある。e)高田反應、グロス反應は多く陽性であるが、臨牀所見、生檢像とは密接關係がない。

2. 肝カテーテル法による血行力學的検査

實施方法は日産婦誌第5巻10號に記載した。中毒症患者50例に實施し、15例に成功した。その平均値はつぎの如く肝血漿流量、肝血流量、體表面積1平方米血流量は、非妊婦、正常妊婦に比して著減している。これに對して肝靜脈壓は著しく上昇している。

また肝門脈抵抗は著増し、動靜脈血中酸素較差が増大しているが、内臓酸素消費量は減少している。

門脈循環時間は、非妊婦(37秒)に比して妊婦(45秒)は遅延し、産褥では回復している。妊娠中毒症(48秒)では正常妊婦と著差がない。

[表省略]

3. 肝生檢所見 (Biopsy) a)正常妊娠では正常肝像である。b)中毒症では軽度乃至中等度の實質性變化すなわち瀰漫性脂肪變性、混濁腫脹及び Sinusoid の狭小が認められる。しかし出血、壊死像は認めない。この生檢像とHSP試験、血清ビリルビン反應、尿ウロビリノーゲン反應、A1/G1 比とは割合平行している。

4. 犬について肝動脈、門脈、腎動脈狭窄を行い、肝血流量、靜脈壓、肝生檢を行つた。a)門脈狭窄例では血流減少し靜脈壓は低下するが組織所見には著變がない。b)肝動脈狭窄では血流量減少し、股動脈、肝靜脈、肝細靜脈などの壓は低下し、組織的には貧血性壊死を認める。c)腎動脈狭窄では血流量の増加と、股動脈、肝靜脈、肝細靜脈などの壓の上昇と、組織的には、出血とうつ血像を認める。

10. 妊娠中毒症における血清燐、燐リポイド、脂肪及び血清並びに尿中無機鹽類 (Na, K, Ca, Mg)の消長について

(日赤本部産院) *丸山英一; 中嶋唯夫, 宗田太郎, 村瀬道雄, 尾見義信

血清燐、燐リポイド、脂肪及び血清並びに尿中無機鹽類などに關しては盛んに論ぜられているが、私達も日赤産院においてそれらの定量を行つた結果を報告する。

血清燐(主として無機燐)、燐リポイドは Aminonapththol sulfonic acid 法、脂肪(總脂質)は Bloov 試薬、P—デオキサン使用により各々光電比色計を使用し、無機鹽類は日立のEPU—2型分光々電光度計H—2型炎光裝置を使用した。

1. 血清燐。血清無機燐の値は妊娠初期に比し、妊娠後半期にはやや減少の傾向を示し、妊娠中毒症においては正常妊娠に比し、やや減少の傾向が見られた。

2. 血清燐リポイド。妊娠初期に比し、妊娠後半期には明らかに増加の傾向を示し、妊娠中毒症においては正常妊娠に比し、やや増加の傾向を示した。

3. 血清脂肪(總脂質)。妊娠初期に比し、妊娠後半期は漸増の傾向を示し、妊娠中毒症においては正常妊娠に比しやや増加の傾向を示すが、妊娠腎、子癇前症、子癇などにおいては著明な差異は見られず、産褥においては明らかに減少の傾向が見られた。

4. 晩期妊娠中毒症における副腎皮質ホルモン並びに藥劑投與時の血清燐、燐リポイド、脂肪について：晩期妊娠中毒症患者に副腎皮質ホルモン並びに藥劑を投與し、投與前、投與後30分、90分の血清無機燐、燐リポイド、脂肪などを定量した。

① DOCA (シンコルタ10mg筋注) 投與時：無機燐はやや漸増の傾向を示し、燐リポイド、脂肪は漸次減少の傾向を示した。

② Cortisone (メルク製 100mg注) 投與時：無機燐はやや増加もしくは變化なく、燐リポイドはやや増加の傾向を示し、脂肪は30分後やや増加、90分後投與前の値にもどる。

昭和32年3月10日

講演要旨

363—15

③ ACTH（アーマー40単位注）投與時：無機燐は30分後やや増加，90分後投與前の値にもどる．燐リポイドは30分後急激に増大し，後投與前の値に近づく．脂肪は殆んど變化がみられなかつた．

④ シスチン（パニールチン 400mg 靜注）投與時：燐，燐リポイド，脂肪ともにほとんど變化がみられなかつた．

⑤ 硫酸マグネシウム（マグネゾール20cc靜注）投與時：無機燐，燐リポイド變化なく，脂肪は30分やや減少の傾向を示し，後投與前の値に近づく．

⑥ メチルチオウラシル（2%メチオゾール 5 cc靜注）投與時：無機燐は變化なく，燐リポイドはやや増加もしくは變化なく，脂肪は減少の傾向を示した．

5. 晩期妊娠中毒症患者に高蛋白低脂肪療法（蛋白80～100g，脂肪20g以下，總カロリー1800～2000Cal）を實施したところ，逐日の血清燐リポイド，脂肪は漸次減少の傾向を示した．

6. 血清並びに尿中無機鹽類

a) 血清 Na, K, Ca, Mg 各濃度の測定では非妊婦，10ヵ月正常妊婦及び中毒症妊婦との間には著明な差は認められなかつた．

b) 尿中 Na, K 各濃度は分娩前数日の逐日の測定で正常妊婦及び中毒症妊婦間に著差はなく，Ca, Mg では中毒症妊婦の値がやや高値を示した．

c) 中毒症妊婦の各攝取と排泄（尿＋糞便）を逐日的にみると正常妊婦に比し，Na, K, Ca は夫々負平衡が強く，Mg では蓄積の傾向がある様に思われた．

11. 重症後期妊娠中毒症 100 例の眼底變化を主とせる後遺症の長期間觀察

（國立東二） 久保 博，*田中龍男
（眼科） 宮下忠男

妊娠中毒症に關しわれわれ臨牀家の取扱う重要な問題の一つとして後遺症がある．

從來の妊娠中毒症後遺症に關する報告は觀察期間が分娩後半年までのことが多かつたが，われわれは子癇40例，子癇を除いた重症後期妊娠中毒症60例に關し，分娩後半年から10年の長期間にわたり残存眼底變化の程度，残存眼底變化と他の全身狀態の後遺症との相關關係，出生兒の發育狀況，後續妊娠との關係などを觀察し，從來の知見と異つた點を認めたので報告する．

1) 眼底變化の残存するものは子癇例では約半數であるが，重症後期妊娠中毒症例ではこれより多く約 $\frac{2}{3}$ であつた．

2) 眼底變化の程度は大半 Wagener の眼底分類で1度であつたが，後續妊娠で重症妊娠中毒症を経過した場合には2度，3度を示すことがあつた．

3) 眼底變化としては網膜血管反射増強，狹細化，白鞘，白斑，黄斑部濁濁，中心窩反射消失などを認めた．

4) 視力低下は，子癇例では眼底變化の残存せるものの殆んどに認められたが，重症後期妊娠中毒症例では眼底變化の残存するものの約半數に認められた．兩者とも眼底變化の残存しない例では殆んど視力低下は認められなかつた．

5) 子癇例では約半數がその後妊娠分娩しており，眼底變化の残存の有無と次回妊娠分娩の有無との間に關連は認められなかつた．

6) 重症後期妊娠中毒症例では患者が再び中毒症になることを恐れ，大半が人工妊娠中絶を行つていたことは注目すべきことである．

7) 子癇例では眼底變化の残存せるものの約 $\frac{2}{3}$ に全身狀態の後遺症が認められたが，重症後期妊娠中毒症例では兩者の間に相關關係を認めなかつた．

8) 全身狀態の後遺症としては從來高血壓が多いといわれていたが，われわれの例では少數であつた．

9) 出生兒の發育狀況は子癇例でも，重症後期妊娠中毒症でも殆んど變らず良好であり，死亡例は1例もなかつた．

12. 晩期妊娠中毒症における腦波の研究（諸種藥劑投與による波形の變化）

（埼玉小川日赤） *木村忠良

（國立東二） 古明地義憲

われわれはすでに第2回本總會（1950年）にて子癇腦波を，1955年第10回厚生省醫務局研究會及び第11回同會に妊娠中毒症における θ 波の出現について發表したが，今度は晩期妊娠中毒症に諸種藥劑を投與しその腦波に及ぼす影響を追求し興味ある結果をえたので報告する．

われわれは既に妊娠中毒症における（4～8 C/S 波） θ 波の出現率は浮腫，蛋白尿の著明なものに多いことを知り，古くから Zangemeister, Seitz, Schröder が子癇の腦に浮腫のあることを強調しているところから，われわれは大脳皮質における浮腫，循環障礙，代謝異常などが徐波發生の源と考え，急速にこれら浮腫その他の減退消失を企圖し，その一法として高張糖液を靜注したところ，徐波はその周期を短縮し， α 波の頻度は増加し，腦波は全般的に回復傾向を示した．なお高血壓を主徴とするものの腦波は比較的 β 波多く，かつ α 波の連